

令和 5 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名： グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100659		
法人名	株式会社 三協メディケア		
事業所名	グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)		
所在地	〒020-0826 岩手県盛岡市神子田町6-12		
自己評価作成日	令和5年7月18日	評価結果市町村受理日	令和5年11月7日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「心和・楽笑」を理念に掲げ、職員一人ひとりが利用者様に寄り添ったケアを行っております。また、提携病院による定期往診や訪問看護による毎週の健康管理など、医療連携をしっかりと取る事により利用者様ご本人様とご家族様にとって安心して当施設での生活を送って頂けるよう努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

北上川沿いの閑静な住宅地にある、2ユニットの二階建てのグループホームである。フロア兼食堂は広く開放感があり、心穏やかな生活ができる環境にある。敷地内の裏庭に散歩できる場所があり憩いの場ともなっている。居間兼食堂のスペースは広くゆったりできる環境が整えられ、職員で創り上げた理念である「心・和・楽・笑」をモットーに、心穏やかな安心できる生活を送ることができるよう、家族と密な連絡、かかりつけ医との連携、訪問看護ステーションによる週1回の定期的健康管理はもとより、きめ細やかなケアを心掛け、利用者個々にあわせてさりげない言葉かけやしぐさとはどうあったらいいかを模索しながら日々介護に当たっている。暮らしの中でみられる利用者の笑顔は、毎月発行の「あったかいご神子田マルシェ新聞」に凝縮されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和5年9月21日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロアに理念を表示しており、それを観て実践に繋げております。	会社の理念「共に和み共に生きる」のもと、開設当初どのような事業所を目指すか、職員間で議論し、まとめたのが「心、和、楽、笑」であった。年度初めに再確認している。職員は介護の基本となることを理解し実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域運営推進会議が毎月行われ、交流が図られております。	自治会に加入し回覧板で地域の情報を取り入れている。今までコロナ禍で関わることを止めていた秋祭りには、地元の山車が事業所前で音頭あげを披露し、利用者に声を掛けてもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	広報等にて認知症の利用者様の生活についての理解を図っております。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月毎の活動報告、ひやりはっとの報告にて、改善策等を話し合い、サービスの向上に活かしております。	町内会長、民生委員、地域包括支援センター、利用者・家族代表で委員が構成されている。家族代表は順番にお願いし、多くの意見を聞くようにしている。今年4月から対面開催とし、報告事項に対して委員から意見や質問をいただいている。毎月発行の「あったかいご神子田マルシェ新聞」を資料として提出し、利用者の様子を理解してもらうようにしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	認定調査や電話によるご相談にて協力関係を築くよう努めております。	要介護認定申請等の提出書類は直接市介護福祉課へ持参し、その際に疑問点などについて聞いたりしているほか、電話やメールでのやり取りも多くあり、認識のズレがないように丁寧な指導をいただいている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止委員会を設けており、三ヶ月に一度、会議にて問題点等について話し合う事により身体拘束の無いケアに取り組んでおります。	法人全体の身体拘束廃止委員会に各事業所の委員が出席し、その内容を持ち帰り、事業所で職員に復命している。スピーチロックに関しては、フロア会議でも気づいたことを報告し、共有していくプロセスを地道に続けている。玄関は夜のみ施錠している。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあつたかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	年に数回、研修会を実施しております。研修で学んだ事を活かしながら日々のケアに取り組んでおります。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	所長・管理者は関係者と話し合いの機会があると思います。他の職員は過去に学んだ事はあるかと思いますが、全員が理解出来ているのかは分かりません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	主に所長・管理者が携わる事ですが、理解・納得を図っていると思われ、信頼感を得ていると思います。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご意見・ご要望に出来る範囲で応じていると思います。	利用者には「どうする？」と問いかけ、要望を引き出すように心掛けている。面会制限の中、家族から直接要望など聞く機会が少なく、電話や毎月発行のマルシェ新聞を送付し、意見などを出しやすいように工夫している。また運営推進会議にも家族代表が出席し、その席で意見・提案等を聴くように努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議があり、意見・提案等を反映させています。	職員は年2回管理者との個人面談がある。業務面の提案や私的な事など、思っていることを何でも話せる場となっている。また職員用の意見箱を設置し意見を募っており、月に1~2通提案などが入っている。気づいたときや疑問に思ったことなど直接話してくる職員もあり、可能な限り運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的な個人面談があり、話し合いをして努めていると思います。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者・管理者は職員の力量を把握されていると思います。また、場合により研修を受けた職員もおります。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で同業者と交流する機会はあまり無かったと思われます。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	能動的な行動を止める事の無いよう注意しながら見守り、声掛けを行い信頼に向けた関係作りをしております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様とは積極的には関わっていないと思います。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	「出来る事」に注目し、「出来そうな事」を提示する事に対応を考えております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の「やりたい事」を尊重し、サービスの無理強いをしないよう努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様とは積極的には関わっていないと思います。		

事業所名 : グループホームあつたかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	散歩やドライブ等で外出する機会を設けておりますが、頻度は低いと思います。	馴染みの人は家族であり、最近短時間でも室内で面会できるようにした。過去には利用者が会いたい人を聞いて、職員がその人と交渉し、直接会いに行った例もあった。馴染みの場所をドライブし、これまでを懐かしむことの出来る支援も行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全体レクリエーション等を行い、利用者様同士で交流出来るよう取り組んでおります。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後に関わりを持った事はありません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様やご家族様と話し合い、ご希望に添えるような暮らしを提案しております。	言葉でうまく言い表せない利用者には、家族や同僚から情報を集め、普段の行動と併せて、思いを巡らすことから始めている。気付いたことは職員間で連絡ノートに記載し、情報共有しながら本人の意向把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様や病院等と話し合いを行ったり、情報を頂きながら把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご自分で出来る事はご自分で行って頂き、どのくらいまでの事が行えるか等の把握に努めております。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	会議等で話し合いを行い、現状に合ったケア内容を実施しております。	医師や家族の意見、これまでの生活情報を基にケアマネージャーがプランを作成し、そのプランを職員で話し合って調整している。家族にプランを説明した上で同意を得て決定している。計画は3か月毎に定期的に見直し、担当職員がモニタリングし、その内容を職員間で検討し、ケアマネージャーが最終プランとしてまとめている。現状に即したプランに沿ったケアを実践している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化等は記録や申し送りで共有し、より良い介護が出来るよう努めております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族様の希望や新しい内容を取り入れ、サービスの向上、多機能化に取り組んでおります。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍にて控えておりました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	普段の様子を記入した受診連絡票を活用し、ご家族様と医療機関との連携を図っております。	4名が入居前からのかかりつけ医を受診者し、家族が付き添っている。受診内容は受診連絡表で医師・家族・事業所が共有している。協力医療機関では月2回訪問診療に訪れ、また訪問看護ステーションも毎週1回来訪し、利用者の健康管理を担っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護の定期訪問時や体調不良時には、状態を詳しく伝え適切なケアに繋がるよう意識しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者様のご回復が早期になるよう病院と連絡を取り合い、情報交換も積極的に行っております。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療機関と連携し、相談するなどして終末期の時期を見据え、様子観察を行っております。また、ご家族様のご希望に添ったケアも実施しております。	看取り指針を作成し、利用契約時に家族等に指針に沿って説明し、理解が得られている。医療機関と連携・相談をし、必要時家族への説明・意思確認を行っている。今までに2ユニットあわせて15例程の看取りを経験している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDの使用数方法、心臓マッサージの方法を定期的に研修会を通して学び直しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施しており、利用者様にもご協力頂き、災害発生時に行動が出来るよう取り組んでおります。	年3回避難訓練を実施している。5月は2階からの出火を想定した夜間想定訓練を実施し、訓練の反省点として手元にライトが必要との意見が出されている。7月は水害を想定した訓練を実施し、秋には3回目を計画している。食料品や水などを備蓄しており、また長期に備え近隣施設の倉庫に備蓄品を保管してある。	避難時に近隣の住民の協力をいただけるよう運営推進会議で話し合い、具体的にどのような協力をしてもらえばいいのかを明確にして、これなら協力できると了解得られるような働きかけをしていただくことを期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	優しい声掛けでお互いが気持ち良く過ごせるよう、言葉や行動に対して意識しております。	利用者の自尊心を守るために羞恥心に配慮した言動を心掛け、トイレでの失敗時はさりげなく対処するようにしている。言われたくない言葉は個々に異なり、相手に合わせた対応がとれるように情報を共有し、気持ちよく過ごせるような支援を心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	希望に応え、思いを出せるようにしております。また、自己決定が出来るようにお声掛けしております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自由にお一人お一人のペースで過ごされております。		

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様に確認をしながら洋服選びをしております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	刻み、ミキサー食や温度等に気を付けながら提供しております。また、出来る方には準備や片付けをして頂いております。	1階、2階フロアで職員が別々のメニューで当番制で食材を購入し調理している。自家菜園で収穫した野菜を調理に使い喜ばれている。行事食は1階2階のフロア一緒に仕出し料理等で特別感を味わってもらい、利用者に喜ばれている。利用者は家族の一員として、テーブル拭きなど自分で出来ることを手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	状態に合わせて提供しております。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っております。声掛け、一部介助、全介助にて実施しております。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の間隔を見ながらお声掛け、トイレ誘導を行っております。	寝たきりの方1人以外はトイレで排泄している。他の方は生活記録表により、排泄パーンやその時の表情動作から、自尊心を傷つけないように声掛けをし、トイレ誘導している。トイレは安心して使用できる出入りが楽な車いす対応となっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物等、工夫しておりますが、下剤等で調整する事もあります。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴する曜日は決まっておりますが、拒否があった際は無理に勧めず、日にちをずらして入浴して頂いております。また、入浴中も自由に入って頂いております。	週2、3回を基本に汚れたときは随時入浴するようにしている。入浴を嫌がる方には時間をずらし、同性介助希望はその意向に沿って対応している。入浴時に皮膚などに異常が無いか、さり気なく観察している。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあったかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご自分の意思に沿って休息されております。不安のある時は傾聴をし、安心して眠って頂けるよう支援しております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	変更があった際は職員間で共有しております。また、状態の確認に努めております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	おしぼりを畳む事を日課にされている利用者様がいらっしゃいます。他の方もそれぞれ役割を持って実施して下さっております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍で外出は控えておりましたが、お散歩に行かれたりドライブを行う等の支援をしております。	コロナ禍で外出は控えているが、早朝敷地内の裏庭での散歩を楽しんでいる。2階フロアでは5月に岩山へ新緑ドライブを楽しんだ。また盛岡秋祭りには、町内の山車が事業所前で首頭あげを披露し、利用者が直接綱をさわることができ、大喜びで充実した1日を過ごすことができた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近くのスーパーマーケットにおやつを購入しに行きました。安心するという事でお金を所持されている利用者様もいらっしゃいます。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	帰宅願望が見られた時や不安な様子が見られた時等、ご家族様にお電話をさせて頂いております。また、ご家族様からのご要望で、週に一度リモートでの面会も行っております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁画装飾は季節感のある物にし、認知症の方でも分かりやすいよう工夫しております。また、個々が生活してきた環境に配慮し、過ごしやすい空間作りにも心掛けております。	ホールは大きな窓から暖かな陽が差し込み快適な場所となっている。エアコン、加湿器で空調管理が行われ、利用者は自由に過ごしている。2階には家族用の宿泊室も用意されている。ラジオ体操、風船バレーやゲームで笑顔が溢れるホールとなっている。	

令和 5 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホームあつたかいご神子田マルシェ (2Fしずく)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	プライバシーを配慮したり、過ごしやすい空間作りに努めております。また、ご本人様の希望や訴えに耳を傾け環境整備を行っております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は在宅時に近い環境を作る為、使い慣れた家具等をご持参し使用して頂く事で、安心した生活が送れるよう支援しております。	居室には電動ベッド、洗面台、クローゼットが備え付けられている。これまでの生活の延長ととらえ馴染みのあるものを持ち込むことを勧めているが、最近家族写真、アルバム、ぬいぐるみくらいで、殺風景な部屋の利用者が多い。家族と長い別居生活により家族が利用者の馴染みの物がわからないことも一因と思われる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	「出来る事、したい事」に着目し、自立支援を促しております。また、認知症状の進行を抑える為、掃除や洗濯物畳み等、身の回りの事を職員と共に行って頂いております。		